

# ひろがれっど

【ひろがれ、かさなれ、むさしののわ】

2022  
第57号



特集

ご本人の希望を  
実現するための  
十人十色の個別支援計画

あつたかまつりの歩みとこれから

●トピックス

就労支援の立ち位置

●えすぶれっそ

日々の生活の中で

濱田 紗希

馬場 未羽

●えすぶれっそ 番外編

2022年度 新人紹介

●笑門来福

一人ひとり、夏の思い出を

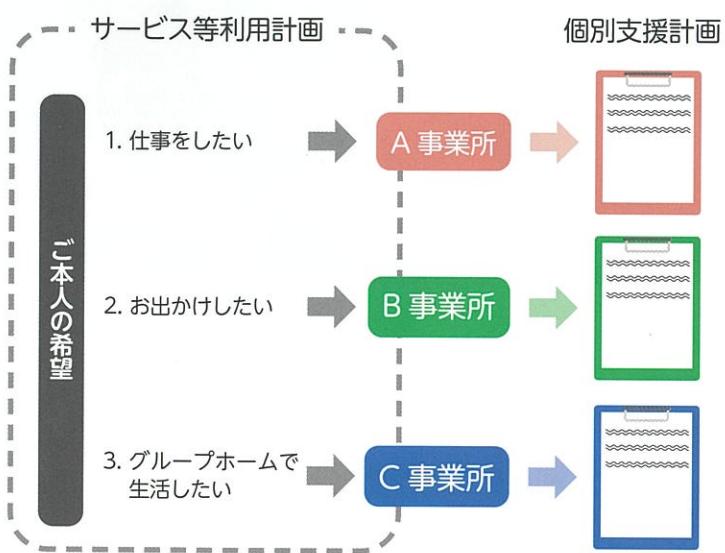
# 特集

# ご本人の希望を実現するためには

## 十人十色の個別支援計画

「私たち抜きに、私たちのことを決めないで」という言葉をご存じですか？これは障害者権利条約の制定時から今日まで、当事者が大切にしているスローガンです。希望や意見を相手にわかる仕方で表現することが苦手な方や、複雑な判断や決定を求められても上手に対応できない方がいます。しかし、人にはだれにでも意思があり、意見や意向があります。ご本人を中心据えて、その方の意思や意見を踏まえて希望する生活を実現していくことは、人が権利の主体として生きるうえで大切なことです。今回は、ご本人の意思や意見を反映し実現していくための手立てのひとつである『個別支援計画』を特集します。

図1 全体計画と個別支援



**サービス等利用計画と個別支援計画**

障害福祉サービスを利用する際には、その人が希望する生活を実現するために必要なサービスや社会資源を含めた「生活全体の地図」のようなものが作られます。これが「サービス等利用計画」です（図1参照）。

サービス等利用計画に記載された生活や仕事、活動などの役割を担うそれぞれの事業所では、「個別支援計画」を作成します。文字通り一人ひとりに合わせた個別の支援内容の計画です。

さまざまな計画は、ご本人やご家族の希望に沿って作成します。希望に沿うといつても、知的障害のある方々の中には、イメージはあっても言葉で表現することが難しかったり、目の前にはないものを想像することが難しい人もいます。表出される言葉と実際の想いが異なる人もいて、ご利用者の障害特性はさまざまです。そのため、ご家族やご本人を知る方々の意向や想い、日常生活の何気ないやりとりから、「こんなことが好きかも」「こんなことをやってみたいのかな」と支援者が感じ、ご家族とも話し合ったことなどを参考に目標や支援方法を決めていきます。

実際に支援する中で上手くいかないときや、目標設定自体に疑問を感じることもあります。また、希望を反映した計画を作成したものの、実際にやってみたら思っていたことと違っていたとご本人が気づくこともあります。ご本人の希望自体が状況によって変化することもあります。そのようなときには計画を見直し、改善していきます。

ご本人の希望を実現するための目標と、達成するための具体的な支援を記載します。私たちはこの個別支援計画をもとに毎日の支援を展開していきます。

**障害特性と本人の希望**

さまざまな計画は、ご本人やご家族の希望に沿って作成します。希望に沿うといつても、知的障害のある方々の中には、イメージはあっても言葉で表現することが難しかったり、目の前にはないものを想像することが難しい人もいます。表出される言葉と実際の想いが異なる人もいて、ご利用者の障害特性はさまざまです。そのため、ご家族やご本人を知る方々の意向や想い、日常生活の何気ないやりとりから、「こんなことが好きかも」「こんなことをやってみたいのかな」と支援者が感じ、ご家族とも話し合ったことなどを参考に目標や支援方法を決めていきます。

実際に支援する中で上手くいかないときや、目標設定自体に疑問を感じることもあります。また、希望を反映した計画を作成したものの、実際にやってみたら思っていたことと違っていたとご本人が気づくこともあります。ご本人の希望自体が状況によって変化することもあります。そのようなときには計画を見直し、改善していきます。

# みんなの個別支援計画 にまつわるエピソード

就労系の事業所に通う  
Aさん



当初、Aさんは体力面を考慮して、通所は週3日としていました。生活ペースも安定したある時期にAさんから「利用日数を増やしたい」との希望が出たため、週4日通所することにしました。しかし、実際通所してみるとやはり疲れてしまい、体力的に厳しかったようです。

そこで主治医や市役所の担当ケースワーカーにも相談してアドバイスを受け、週3日の利用に一度戻すことになりました。ご本人の意欲を大切にしながら、無理なく継続して働く“自分にあった働くペース”の模索と一緒に続けていきます。

就労系の事業所に通う  
Cさん



Cさんは福祉施設で給食調理など食品の仕事をするグループに所属しています。午前中は昼食までの決められた時間内で野菜カット、汁物調理、配膳をし、午後はたくさんの食器洗浄や翌日準備などの作業を皆で分担します。Cさんの主な担当は給食調理補助で、小鉢の盛り付けを毎日100人分行っています。

Cさんには「スイーツが作りたい」という希望があり、個別支援計画の目標にしました。担当作業の合間に縫って大型ミキサーを使ってパウンドケーキを作りました。Cさんは「みんながおいしいって、よろこんで食べててくれた！」と直後はとても嬉しそうでしたが、その年を振り返る面談で話を聞くと満足していないようでした。理由をじっくり聞くと、「ミキサーは使わないんだ」と、Cさんはテレビでやっていた《パーティシエ手作りチョコレートケーキ》のイメージをぽつりぽつりと語ってくれました。

生活介護事業所に通う  
Bさん



Bさんは言葉では表現しませんが、行動や身振りで気持ちを伝えてくれます。また自身のタイミングやペースをしっかりもっており、特定の物や状況に対しての決まり事が多くある方です。これまでいつでもできる練習用の色分けやマッチング、ビーズ通し等の作業に主に取り組んでいました。ご家族から「手先は器用なので、受注作業にも参加してほしい」との要望があがったので、目標に取り入れました。タイミングを見計らってお誘いしているうちに、やりたいときにはアピールをしてくれるようになり、流れ作業にも自身の決まりごとに折り合いをつけながら、今では多くの工程に参加しています。

生活介護事業所に通う  
Dさん



Dさんは人とかかわることやバス・車の往来を眺めることが大好きです。そのため散歩の際、好きなものを見たい気持ちが強いときは、他の方のペースと合わせず、道で座り込んでしまうこともあります。そこで、Dさんが楽しみながら街の中を歩き、地域の方と交流できる機会を作りたいと考え、「気まま散歩」を実施する個別支援計画を立てました。立ち止まりたいときは止まって道路を眺め、かかわりたい人と挨拶を交わすなど、Dさんの気持ちや歩くペースに合わせて散歩をしました。Dさんは座り込むこともなく、終始笑顔でした。「気まま散歩」以外の活動でも他の方と同じペースで歩くことが増えるなど、Dさんの気持ちにも前向きな変化があったようです。言葉ではなくても、行動で表現した気持ちを汲み取り、これからもご本人の希望や意思に沿った支援計画につなげていきたいと思います。



の生活を見てみましょう！(次のページ)

Cさん



# Cさんの生活

ガイドヘルパー<sup>\*1</sup>

余暇活動<sup>\*2</sup>

グループホーム<sup>\*3</sup>

かかりつけ病院（医師）

福祉施設（作業）

Q

昨年の個別支援計画の目標を達成してどうでしたか？

楽しかった！みんなのよろこぶ顔が見たいからやっています。みんなの笑顔が好きです。世界中に届けたいです。簡単なケーキとかクッキーもやってみたいと思います。

家族

ともだち

習い事

その他にも近所のコンビニやスーパーなどたくさんのかかわりがあります

\*1…外出の際に付き添いを行うヘルパー。移動支援従事者  
\*2…おたのしみやイベント、学びの機会等の支援  
\*3…健康・生活面のサポートを受けながら少人数で暮らす住まいの形

## 作業中の様子



配食に使うホイコーローのキャベツを切っています



給食の小鉢盛り付け  
今日はかぼちゃのサラダです



ハンバーグ成型

## いじどり豊かな生活に向けて

『個別支援計画』をご本人と一緒に作成していく方法、その内容をわかりやすくしていく工夫、支援していく関係者の連携など、まだまだ多くの課題があります。それらの課題を改善しつつ、ご本人の希望を受け止め、計画を実行していきます。その小さな取り組みの一つ一つが日常の生活の中で実現することで、さらに次の夢や希望に向けたモチベーションにつながっていくよう、真摯に取り組んでいきたいと思います。



## 支援者の声

Cさんのもっているパーティシエのイメージにできるだけ近いケーキ作りはできないものか、これからご本人、支援者ともに考えながら実現に向けて工夫していきたいと思っています。



2016年 第16回あつたかまつりでのゲームコーナーの様子

## あつたかまつりの歩みとこれから

むさしのあつたかまつりは2001年に第1回が開催されました。それまで武藏野市が行っていた障害福祉関連イベントの主催を、社会福祉法人武藏野が引き継ぐ形でスタートしました。

当初は「障害がある方が主役になるまつりとして、障害の有無にかかわらず、ともに楽しみ交流する」という趣旨の趣旨は「多様性の社会と相互理解」とも、手探りでの取り組みでした。

第3回は障害関連団体紹介のパネル展のみを行い、今後のまつりのありかたについて関係者が議論する年にしました。この議論を経て、有志の実行委員会と当法人が主催し、武藏野市が共催する現在の形となりました。まつり

の趣旨に賛同した団体がそれぞれ実行委員を派遣して実行委員会を組織し、身の丈に合った手作りのまつりを毎年作り上げて、現在に至っています。

この間、会場探しには大変苦労しました。まつり自体が関係者に知られ、イベント内容も広がりを見せるにつれ、適切な会場探しは大きな課題になりました。2012年から2014年は、大野田小学校をお借りして開催しました。小学校の広さと充実した設備、何より学校関係の来場者が多数あり、こ

のまつりが一気に地域に知られるきっかけになりました。この頃からまつりを繼續していましてが、3年前の新型コロナウイルスの影響により2年間はイベントを中止せざるを得ませんでした。

この間も実行委員のみなさんは委員会を繼續開催し、コロナ禍におけるまつりのありかたについて話し合い、準備を進めてきました。そして2022年度は、Withコロナを意識した新たなイベントを開催する予定です。10月15日(土)、会場は初めてむさしのエコゾーンで、屋外を中心に基づき設置して行いたいと考えています(イベントの詳細は今後ホームページ等でお知らせします)。また、昨年度より制作

してきた、あつたかまつりの歩みを紹介する動画や、実行委員として参加している各関係団体の紹介動画なども順次配信する予定です(視聴方法は左記をご参考ください)。

『誰もがいきいきと安心して住み続ける支えあいのまち』作りにつながるようなまつりを、これからもみなさんとともに作っていきたいと思います。

(あつたかまつり実行委員会事務局)

本庄  
一聖

### information

あつたかまつりのFacebookはこちら。  
二次元バーコードをご利用いただくか、「むさしのあつたかまつり」で検索してください。

今後、順次、情報や動画を発信していきます。  
お楽しみに!



# えすふれつそ

ちょっとひといき♪ 心がほっと温まるスタッフの日常をお届け♪



## 就労支援の立ち位置

ワークセンターけやき

濱田 紗希

→地図  
P.8-A



ご利用者と一緒に洗った調理器具を拭いています

就労継続支援B型（以下、就労支援）の現場で働き始めて早4年目となりました。日々の支援の中で「就労支援とはどういう立ち位置にあるのか」といふことを常に考えています。

就労支援は作業を提供する側面と、福祉的支援の側面が混在しています。支援者はそのバランスをうまくとらなければなりません。

就労継続支援B型（以下、就労支援）の現場で働き始めて早4年目となりました。日々の支援の中で「就労支援とはどういう立ち位置にあるのか」といふことを常に考えています。

就労支援は作業を提供する側面と、福祉的支援の側面が混在しています。支援者はそのバランスをうまくとらなければなりません。

ではなはず、どちらかが強くなりすぎても成り立たません。今の自分はバランスをとって支援ができるいるのかと不安になることもあります。

作業中に「パウンドケーキの袋詰めが嫌だ」と言つていた利用者に対し、なぜ嫌なのかを聞き、一緒に苦手などこの練習を何度も繰り返しました。するとある日、「私が袋詰めしたパウンドケーキが売れた！」と嬉しそうに報告してくれました。その方が楽しゅやる気をもつて作業をできているのだと感じ、どの作業でも意欲的に取り組める支援を続けたいと思いました。

昨日上手くいったことが今日は上手くいかないという難しさを日々痛感します。だからこそ支援の立ち位置が偏つていなかを考へ、現場全体で試行錯誤を続けながら支援を行つていきたと思います。



活用している視覚支援（絵や字を指差して教えてくれます）

## 日々の生活の中で

みどりのこども館通園部ワイズ

馬場 未羽

→地図  
P.8-B

みどりのこども館通園部ワイズに勤務して1年が経過しました。一日として同じような日はなく、毎日新鮮な気持ちで業務を行っています。ワイズの生活は朝の送迎から家に帰るまでの短い時間の中でのかかわりですが、子どもたちの発信による楽しさがいっぱいです。

私の日々の業務の励みは、子どもたちの成長におどろかされます。子どもたちは職員の言葉から、たくさんのことを吸収しています。言葉を通じて、人とのかかわりを学び、新しいものとのへの興味関心が育つていくのです。そんな子どもたちの成長を願い、子どもたちの心がより豊かになるようなかわりを心がけています。

これからも子どもたちが笑顔あふれる日々を送れるよう支援を行つていきたいです。

えすふれっそ

番外編

2022年度

## 新人紹介



Q &amp; A

特別養護老人ホーム ゆとりえ

こばやし あおい

小林 蒼さん

→地図  
P.8-D

A1 小学生のときに聴覚障害や自閉症の本を読んだことが

きっかけで、自分も支援する人になりたいと思い、福祉の道に進みました。大学生のときに高齢者施設で生活支援のアルバイトを経験し、介護技術を身につけたいと思い福祉職につきました。

A2 今はまだ自分の技術量ではできないことも多く、悩む日々です。しかし、どうしたらできるようになるのかを先輩職員の方々と一緒に考えて貰うので、次に活かすことができています。また、ご入居者の生活からも学ぶことが多く、さらに頑張りたいと思うことができています。

A3 日々の生活での変化に気付き、その人にとって一番良い支援ができる支援者になりたいです。ご入居者が安心して、楽しく毎日を過ごすことを常に考えて行動し、自分自身もやりがいや楽しさを感じながら働いていきたいです。

武藏野市障害者福祉センター

たなか まみ

田仲 真未さん

→地図  
P.8-F

A1 医療機関で言語聴覚士の仕事をするなかで、退院された後の生活や就労についての不安を聞く事が多くありました。話を聞くだけではなく実際に支援がしたいと思い、医療から福祉へ転職をしました。

A2 ご利用者の生活、就労、健康について、ご本人やご家族がとても真剣に向き合っているご様子を目のあたりにしています。その声を丁寧に聞き、専門的で実際的な支援をしている先輩方の仕事を見ながら学んでいるところです。

A3 社会資源や情報を少しでも多く知り、引き出しを増やし、ご利用者と丁寧に向き合える支援者になりたいです。その方が目指したい人生に近づいていくよう支援したいです。

Q1

福祉職についての理由は何ですか？

Q2

入職してみてどのように感じましたか？

Q3

どんな支援者になりたいですか？

→地図  
P.8-C

デイセンターふれあい

つちや あつし

土屋 敦さん



A1 大学時代に小学校でダウン症の児童の教科補助をしていました。そのとき、見守りや声かけ中心のボランティアより支援の幅を広げたく思い、福祉職（障害者福祉）を目指すようになりました。

A2

ご利用者と一緒に活動に参加して楽しさを共有でき、ご利用者の笑顔には何物にも代えがたい嬉しさがあります。初めての現場で覚えることが多く、まだまだ大変な状況が続きますが、ご利用者の自己実現や意思決定につながるような日々の活動に、楽しさややりがいを感じています。

A3

ご利用者が安全に楽しい日々を送れるよう、気持ちに心から寄り添い、安心・信頼できる支援者になりたいと思っています。ご利用者のことをよく知っていくことと共に、私のことも知ってもらいながら信頼関係を築きたいです。

→地図  
P.8-E

わくらす武藏野

くろさわ りゅうき

黒澤 隆希さん



A1 人の役に立つ仕事がしたいと思い、福祉系の大学に進学しました。アルバイトでも福祉関係のアルバイトを4年間続けて来たため、今後も福祉に携わりたいと強く感じ、福祉職の道を選択しました。

A2

大変なこともありますですが、ご利用者が笑顔になると頑張ろうという気持ちになれます。大学時代に学んだことを活かしながら、今後も頑張りたいと思っています。

A3

ご利用者の気持ちや想いを汲み取れる支援を心がけていきたいです。支援者である前に理解者であるという気持ちで、日々の支援に臨んでいきたいです。

# 笑門来福

一人ひとり、夏の思い出を



皆さま方には日頃より温かい励ましとご支援を賜り、心より感謝申し上げます。  
夏も盛りを迎え、8月に入りました。8月と聞くと、何を思い浮かべるでしょうか。

日本に古くから伝わる習わしに「お盆」があります。この間にこの世に戻ってくるご先祖さまや、亡くなつた方を供養する行事です。

サンスクリット語の「ウツランバナ」が語源の仏教行事「盂蘭盆会（うらばんえ）」が由来とされ、日本の祖靈信仰と融合し、日本ならではの習慣となつたようです。

昔は旧暦（太陰暦）の7月15日に行われていましたが、明治時代に新暦（太陽暦）が施行され、日にちをそのまま移行すると農繁期と重なり支障があることなどから、一口にお盆といつても、地域により時期や期間は異なつてゐるのが現状です。  
【新暦7月15日】東京や地方の一部などで、期間は7月13日の盆の入り（迎え）～16日の盆明け（送り）までの4日間。

【月遅れ盆】多くの地域や家庭で見受けられ、期間は1か月遅れの8月13日～16日まで。なお、多摩地域の一部では8月1日前後のところもあります。

【旧盆】沖縄や奄美地方などで旧暦に基づいて行われており、新暦に直すとズレが生じるため、時期は固定ではなく年によって異なり、9月の年もあるようです。

ちなみに、49日法要後に迎える最初のお盆を「初盆」または「新盆」と呼びます。

田舎に帰省し、お墓の掃除やお供え物の準備をする方もおられることが多いです。身内でお互いのつながりを確かめ合う機会でもあり、お盆のほかにも風習や宗教に則り、全国でさまざまな行事が行われています。

さて、夏の風物詩といえば七夕、風鈴、かき氷、ビアガーデン。海水浴やキャンプ、バーベキューなどなど。プールや花火大会、夏祭りや盆踊りの縁日もあります。

その時々の楽しみや思い出をつくることが叶うよう、新型コロナウイルスも世の中も落ち着くことを願わざにはいられません。

皆さま方一人ひとりに、この夏、楽しいことが待つておりますように。

（理事長 渡邊 昭浩）

## 社会福祉法人 武蔵野 案内図

各施設は、  
●児童サービス  
●障害者サービス  
●高齢者サービス  
に色・書体分けしています。また、A～Cは本誌に記事を掲載している施設です。

武蔵野市桜堤ケアハウス  
軽費老人ホーム  
在宅介護・地域包括支援センター  
放課後等デイサービスパレット  
ハピットサテライト



編集後記

あらためて個別支援計画のあり方について考える機会となりました。あくまでも「個別」、その人それぞれの想いや希望をこれからも大切にしていきたいと思います。(H)